



シラバス参照

タイトル「2014年度 経済学部シラバス」、フォルダ「2014年度 経済学部シラバス-専門科目(基礎専門科目)」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	情報処理論		
担当教員	荻田 昌也		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金 1	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 1年生		
科目名(英語表記)	Information Processing		
開設学科	ビジネスマネジメント学科		
研究室	経済学部本館棟320室		
オフィスアワー			
授業の概要	<p>コンピュータによる情報処理について学ぶ。具体的には、文字・音声・画像などの情報の表現方法、データ量と情報量、コンピュータが動作する仕組み、情報を処理する仕組み、取り扱う情報のモデル化などを取り上げ、情報処理にかかわる基本的な知識を習得する。</p> <p>現代の社会では、各種の社会基盤やサービスがコンピュータによって制御されている。私たちも日常生活において様々な情報機器を利用している。社会や生活を支える情報処理技術について理解を深めることにより、豊かで安全な生活をおくるとともに、健全な情報社会の発展に寄与する人材となることをめざしてもらいたい。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	アナログ情報とデジタル情報	
	2	文字の符号化	
	3	数値の符号化	
	4	音声と画像の符号化	
	5	データ量と情報量	
	6	コンピュータの基本構造	
	7	コンピュータのハードウェア	
	8	コンピュータのソフトウェア	
	9	データ構造アルゴリズム	
	10	アルゴリズムとプログラム	
	11	代表的なアルゴリズムの例(線形探索・二分探索)	
	12	代表的なアルゴリズムの例(バブルソート・併合ソート)	
	13	アルゴリズムの計算量	
	14	データのモデル化	
	15	データモデル化の例	
	情報を符号化する過程から、その符号に対する操作として処理が行われる仕組みに至るまで説明できるようになること。		

到達目標	情報量とデータ量の違いやその関係を具体例を示して説明できること。 データ構造とアルゴリズム、データのモデル化について代表的な例を説明できること。 アルゴリズムに従って計算にかかる手数（計算量）を見積ることができること。
成績評価方法	目標への到達度は、次の方法により評価する予定である。 ・定期試験の結果（50%） ・ウェブ上で行う小テストの受験状況およびその結果（50%）
教科書	河村一樹 他 共著「情報とコンピューター」 オーム社 ISBN:978-4-274-21086-0
参考書	久野 靖, 辰巳丈夫, 佐藤義弘「最新情報リテラシー」（第4版）日経BP社 ISBN:978-4-8222-9508-0
授業時間外学習	授業は一部を除いて、教科書に掲載されている項目の順番に進む予定である。教科書を読んで理解できる部分と理解できない部分を区別した上で授業を受けるなど、各自の好みに合わせて学習すること。 授業の進度に応じて小テストを実施する。期限内に解答すること。 新聞などで情報技術関連の記事があれば目を通してみること。
受講を推奨する関連科目	経営情報システム, 情報ネットワーク論
履修上の注意・メッセージ	

